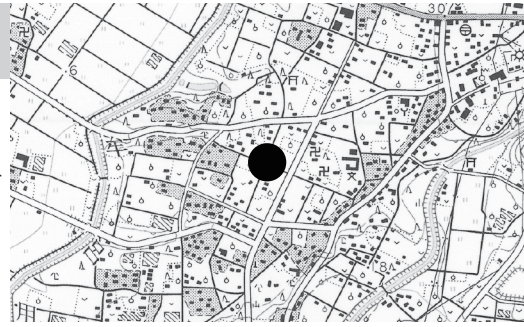


かやの
萱野遺跡 (本発掘調査B)

所在地 豊橋市石巻本町地内
(北緯34度48分3秒 東経137度26分2秒)
調査理由 道路改良工事(交付金)(主)東三河環状線(石巻本町古工区)
調査期間 令和7年10月～令和8年2月
調査面積 5,985㎡
担当者 永井宏幸・早野浩二・小柳篤史



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 愛知県建設局道路建設課東三河東建設事務所による道路改良工事(交付金)(主)東三河環状線(石巻本町古工区)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け実施した。本遺跡は令和6年度より調査を実施している。本年度の調査面積は計5,985㎡である。

立地と環境 遺跡は豊川左岸の河岸段丘縁部部に立地し、東側には神田川沿いの低地がある。調査地点は、河岸段丘上に位置する。本遺跡の東側には昨年度まで調査を行っていた中世から近世を主体とする野添遺跡、神田川沿いの低地には弥生時代中期から後期、中世を主体とする東下地遺跡がある。

調査の概要 25Ab区、25Ba区においては、中世末から近世にかけての遺構、遺物が多く検出された。中世以前の遺物は少量であるが弥生時代の磨製石斧、古代の土師器甕などが確認できた。25Ab区の溝428SDでは15世紀ごろから17、18世紀までの遺物が特に多く確認された。遺物の多くは土師器皿や鍋、焙烙が多く、大窯製品なども確認される。また、溝428SDとBa区の溝10003SDではどちらも鉄滓などが出土していることから近隣で鍛冶を行っていたことが想定される。溝428SDの西側には柱穴が多く確認された。掘立柱建物1は桁行4間、梁行1間の規模である。柱穴は深いものでは検出面から60～70cmほど掘り込まれたものが多い。遺物は少ないが15世紀後半の播鉢や煙管、内耳鍋、土師器皿などが確認でき、溝と同様の存続期間、屋敷がこの調査区に展開していたと考えられる。

25Ba区は溝10003SDを境にして北側は柱穴が少なく、逆に南側には柱穴が集中する。このため溝に囲まれた内側が屋敷の敷地内だと考えられる。25Ba区も25Ab区同様に15世紀後半から17、18世紀の遺物が確認できる。こちらも土師器皿などの出土が多く確認できた。掘立柱建物2は桁行6間以上、梁行1間の南北に細長い建物である。柱穴1097SPでは土師器皿と古瀬戸の縁釉小皿が共伴して出土した。また、溝10003SDでは土師器皿が数枚、縁にまとまって出土しており、屋敷側から捨てられたと考えられる。反対に鉄滓は外側の縁から出土しており、鍛冶が行われた作業場は屋敷区画の外側にあったと想定できる。

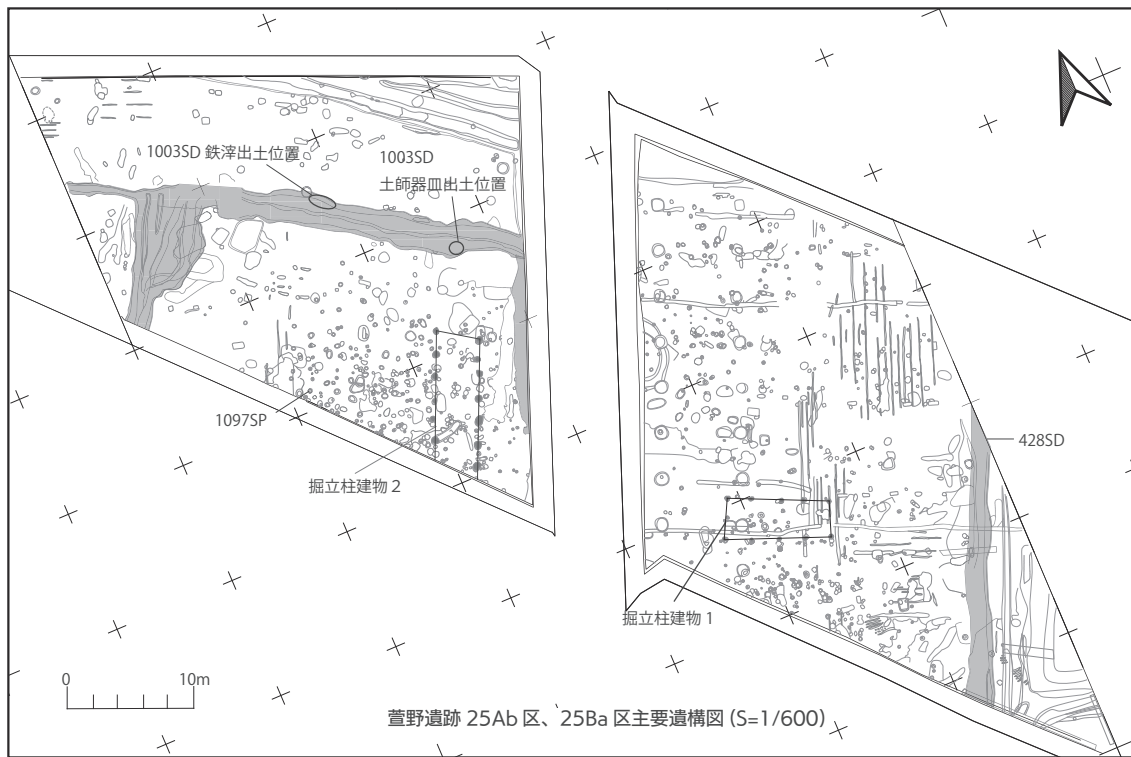
(小柳篤史)



25Ab区231SP 古瀬戸播鉢の出土状況



25Ba区1097SP 縁釉小皿と土師皿の出土状況



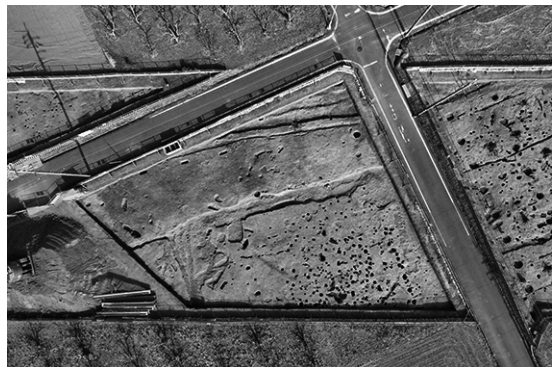
25Ab区 428SDの遺物出土状況



25Ab区 空撮写真



25Ba区 1003SDの土師器皿出土状況



25Ba区 空撮写真